

平成26年度

第7回キヤンサーボード

※大学院特別講義と共催になります。

テーマ：

「Warburg効果(がん細胞の好氣的解糖)

一温故知新」

京都大学医学部附属病院

放射線治療科

特定准教授

原田 浩先生

ドイツの生理学者Otto Warburgは、がん細胞が酸素存在下であっても解糖系を通してATPを産生していること（Warburg効果）を報告した。1分子のglucoseから得られるATP数という指標では、解糖系は極めて非効率的であるが、Warburg効果にはがん細胞の増殖や治療抵抗性を支える大きな意味が隠されていることが明らかになってきた。本講義では、我々が見出した新規遺伝子ネットワークの機能も交えて、Warburg効果の持つ真の意味をリファインしたい。

日時：

平成**26**年**11**月**20**日（木）

時間：

18時00分～20時00分

連絡先：

腫瘍センター（内線4089）

場所：

M&Dタワー 2F 共用講義室1

※時間と場所にご留意ください